

第5章 地域保健

第1節 母子保健

1 母子保健

母親のストレスや育児不安の軽減、子どもの健やかな成長を促すことを目的に心身障害及びその疑いのある乳幼児に対して専門医や保健師等による相談を実施している。

平成15年度から「母親のメンタルヘルス支援事業」の一環として、EPDS（エジンバラ産後うつ病質問票）を実施し、産科医療機関等と連携を図り、妊

産婦へ心のケアを実施している。

他に管内産科・精神科医療機関職員や、管内市町の母子保健事業に従事する職員を対象に講演会等を開催した。

また、精神発達面について指導助言する「幼児精神発達相談」も行っている。

(1) 相談・訪問指導実施状況

表1 対象別相談訪問指導状況

令和2年度（単位：件）

区分	総数		妊産婦		新生児		未熟児		乳児 (新生児・未熟児を除く)		幼児		その他 (学童以上)		
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	
相談	来所	167	249	20	31	3	3	0	0	14	27	42	55	88	133
	電話	—	2118	—	1057	—	248	—	88	—	616	—	56	—	53
訪問指導		128	148	60	72	21	24	7	9	37	39	2	3	1	1

(2) 健やか妊娠育児支援強化事業

ア 目的

多胎妊婦や若年妊婦等は、妊娠中の健康管理のみならず、出産後の育児においても困難が伴いやすい。

そこで、これらの妊産婦に対し、医療機関、市町、保健福祉センターの連携により、育児不安の軽減と子どもの健やかな成長を促すことを目的とする。

イ 対象者

多胎、若年、未婚、身体的、精神的疾患を抱える妊産婦、その他妊娠や育児に身体的精神的困難が予測される妊産婦とその家族。

ウ 事業内容

- a ハイリスク妊娠等支援事業
- b 未熟児等母乳哺育支援事業
(助産師による訪問)
- c 赤ちゃん体操教室の開催

エ 実施状況（表 2-1～2-3）

表 2-1 ハイリスク妊産婦保健医療連携事業実施状況（妊娠週数別・紹介経路別）

令和 2 年度（単位：件）

	20 週未満	20～23 週	24～27 週	28～31 週	32～35 週	36 週～	産 後	計
医 療 機 関	3		2	2	4	3	175	189
市 町								0
そ の 他						1		1
計	3		2	2	4	4	175	190

表 2-2 未熟児等母乳哺育支援事業実施状況（リスク要因別） 令和 2 年度

	実人員	実施回数
未 熟 児	10	17
多 胎 児	4	4
ハ/リ/ク 産 婦	56	95
そ の 他		
計	70	116

オ 「赤ちゃん体操教室」実施状況

平成 23 年からダウン症児の出生が、例年より大幅に増加したため、出生が多かった加賀地域センターを会場に教室を開催した。その後、小松・能美地区においても出生が続いたため、平成 23 年

10 月から、南加賀保健福祉センター及び同センター加賀地域センターで開催している。赤ちゃん体操プログラムは、一人歩きができるまでを目標としている。

表 2-3 赤ちゃん体操教室実施状況

令和 2 年度

開催日	会 場	実 施 内 容	参 加 者
原則 第 3 火曜日 13：30～ 15：30 年 9 回	南加賀保健福祉センター	赤ちゃん体操の指導及び保護者の交流会 交流テーマ ・兄弟姉妹への関わり方 ・離乳食の進め方 ・医療機関での療育 ・ミュージックケア、エンジェルキッズ、なないろビーンズの活動の紹介等 ・保育園入園について ・眼科、耳鼻科、歯科、口腔外科、整形外科の受診	実人員 ・保護者 5 組 ・児 5 名 延人員 ・保護者 20 名 ・児（兄弟姉妹含む） 19 名 ・関係機関 4 名
原則 第 2 木曜日 13：30～ 15：30 年 8 回	南加賀保健福祉センター 加賀地域センター	赤ちゃん体操の指導及び保護者の交流会 交流テーマ ・兄弟姉妹への関わり方 ・離乳食の進め方 ・医療機関での療育 ・ミュージックケア、エンジェルキッズ、なないろビーンズの活動の紹介等 ・保育園入園について ・眼科、耳鼻科、歯科、口腔外科、整形外科の受診	実人員 ・保護者 3 組 ・児 3 名 延人員 ・保護者 10 名 ・児（兄弟姉妹含む） 10 名 ・関係機関 15 名

(3) 母親のメンタルヘルス支援事業

(3)-1 産婦一般健康健康診査における産後うつ病
の早期発見への支援

表 3-1 産後1か月健診でのEPDS実施状況(参考:市町実施分)

令和2年度

	受診者数	EPDS実施数	EPDS実施率(%)	EPDS9点以上者数	EPDS9点以上者の割合(%)
小松市	751	751	100.0	74	9.9
加賀市	324	315	98.0	28	9.0
能美市	337	337	100.0	39	12.0
川北町	47	47	100.0	2	4.3
計	1459	1450	99.4	143	9.9

(3)-2 母子保健福祉支援事例検討会

ア 目的

母親の育児不安や産後うつ病等の状況を早期に捉えて支援するとともに、妊産婦の心のケアが実施できる体制を整備するために、月1回程

度、管内市町と今後の支援方法等について検討会を開催する。(保健所主催)

イ 開催状況(表3-2)

表 3-2 各市町を会場に開催した状況

令和2年度

	開催回数	参加者(延人員)			
		保健所保健師	市町保健師等	市町福祉課・児童家庭課等	その他
小松市	10	22	55	21	20
加賀市	9	27	50	31	41
能美市	10	24	44	36	21
川北町	8	18	8	0	0

(3)-3 研修会及び連絡会

ア 目的

うつ病等精神疾患を抱えながら子育てしている保護者に対し、妊娠期から地域保健福祉関係者と精神科・産科医療機関等関係者が連携して支援するため、連携の必要性や課題等について関係者間で共通理解を図り、今後の連携を推進・強化することで、保護者の育児不安及び育児負担の軽減を図り、親と子どもの健やかな成長を促すことを目的とする。

イ 対象者

妊産婦の医療・保健等に関わる機会のある医療保健関係者(医師、助産師、看護師及び保健師等)。

ウ 実施内容(表3-3、3-4)

母親のメンタルヘルス支援研修会及び事例検討会、周産期医療と地域との連絡会(母親のメンタルヘルス支援連絡会)

表 3-3 母親のメンタルヘルス支援研修会及び事例検討会実施状況

令和2年度

開催日時	会場	実施内容	参加者
R3.3.11 (木) 第1部 11:00～12:30 第2部 13:30～16:00	南加賀保健福祉センター	第1部 事例検討・意見交換 助言 とよたまこころの診療所 医師 鷲山 拓男 氏 第2部 健やか妊娠育児支援強化事業報告 事例検討・意見交換 レクチャー 「育ちのトラウマ性と子育ての課題」 講師 とよたまこころの診療所 医師 鷲山 拓男 氏	精神科医療機関 産科医療機関 石川県助産師会 市町母子保健・ 児童福祉担当課 児童相談所 保健福祉センター 第1部 13名 第2部 15名 計 28名

表 3-4 周産期医療と地域との連絡会（母親のメンタルヘルス支援連絡会）実施状況

令和2年度

開催日時	会場	実施内容	参加者
R3.2.12 (金) 18:30～20:30	南加賀保健福祉センター	健やか妊娠育児支援強化事業報告及び事例報告 地域連携の課題について意見交換	精神科医療機関 産科医療機関 市町 児童相談所 保健福祉センター 26名

(4) 幼児精神発達相談事業

表 4-1 幼児精神発達相談実施状況

令和2年度

目的	幼児期において重要な精神発達状況を把握し、適切な指導助言を行い、健全な発育発達を促すとともに保護者が精神的にも安心して子育てができるように支援する。
回数	年 20 回
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師の問診 ・ 心理判定員による判定（新版K式発達検査） ・ 小児科医師による診察 ・ 保健指導 ・ 総合評価（支援方針の決定）

表 4-2 幼児精神発達相談来所者状況

令和 2 年度 (単位: 人)

実 人 員		35
延 人 員		35
1 人平均来所回数		1
性 別	男	27 (77.1)
	女	8 (22.9)
結 果	異 常 な し	13 (37.1)
	異 常 あ り	22 (62.9)
来 所 時 年 齢	1 ～ 2 歳未満	0 (0.0)
	2 ～ 3 歳未満	0 (0.0)
	3 ～ 4 歳未満	3 (8.6)
	4 ～ 5 歳未満	19 (54.3)
	5 ～ 6 歳未満	12 (34.3)
	6 ～ 7 歳未満	1 (2.9)

()内 は構成割合%

表 4-3 来所動機 令和 2 年度 (単位: 人)

各種健康診査結果 市町保健師より	35 (100.0)
医 療 機 関 より	0 (0.0)
保 護 者 より	0 (0.0)
そ の 他	0 (0.0)
計	35 (100.0)

()内 は構成割合%

表 4-4 異常の内訳 令和 2 年度 (単位: 人)

言 語 発 達 遅 滞	8 (36.4)
精神(運動)発達遅滞	1 (4.5)
自閉症スペクトラム	7 (31.8)
注意欠陥多動性障害	2 (9.1)
知 的 障 害	2 (9.1)
そ の 他	2 (9.1)
計	22 (100.0)

()内 は構成割合%

(5) 親支援のためのグループケアモデル事業

ア 目的

育児不安や育児困難を抱えている親に対して、親同士の交流の場を提供することにより、自分達の抱えている問題を自ら発見し、その問題に対して積極的に取り組めるようにするとともに虐待などの未然防止を図ることを目的とする。

子どもの心のケアに関する学習会、報告会

イ 対象者

子育てに不安や困難を感じ、何らかの支援を必要とし、親自身が参加を希望する者。

ウ 実施内容 (表 5)

表 5 グループケア実施状況 令和 2 年度

開催回数	参 加 者	
	親	子ども
12 回 (月 1 回)	実 3 人 延 3 人	実 3 人 延 3 人

(6) 子どもの心のケアネットワーク事業

ア 目的

ひきこもりや小児うつ、摂食障害、発達障害など様々な子どもの心の問題について、支援者が関わりの中で抱えている疑問や問題を提示・検討し合いながら、管内における医療・保健・教育・福祉関係者が連携したネットワークの重要性を認識し、切れ目のない支援を行うことを目的とする。

イ 対象者

子どもに関する業務に従事する者

ウ 実施内容 (表 6)

表6 子どもの心のケアネットワーク学習会及び報告会実施状況

令和2年度

日時	内容	参集者
R2. 6. 26	特別編「コロナ時代の子どもの心のケア」	保育所、幼稚園、つどいの広場、相談機関、管内市町児童福祉、障害福祉、母子保健担当課教育センター、小・中・高等学校、特別支援学校、医療機関、発達障害支援センター、児童相談所、保健福祉センター 延 135 人
R2. 7. 17	第1回「こころの発達概説」 (育ちと関わりポイント)	
R2. 8. 21	(中止)第2回「愛着、関係性のもつ意味」について (対人関係、自己肯定感に及ぼす影響)	
R2. 9. 25	第3回「遊ぶことの意味」について	
R2. 10. 30	第4回「思春期の心」について	
R2. 11. 20	第5回「いかにネットワークを動かすか ～強みと弱み～」について	
R3. 1. 22	(中止)子どもの心のネットワーク学習会受講後の 実施報告会	

(7) 発達障害地域関係者連絡会

ア 目的

発達障害は、障害の特性に応じたかかわりを行うことが重要であることから、南加賀管内の発達障害に関わる関係機関が参集し、地域の実情に応じた療育体制等について検討を行い、切れ目のない支援体制の強化を図る。

イ 参集機関

管内市町母子保健担当課、児童福祉担当課、保育園、市町教育委員会、県教育事務所、管内特別支

援学校、発達障害の診断や療育に携わっている管内医療機関、療育機関、発達支援センター、児童相談所

ウ 実施内容(表)

趣旨説明、昨年度連絡会の振り返り、講義、グループディスカッション

表7 発達障害地域関係者連絡会

令和2年度

開催日時	会場	実施内容	参加者
R3. 3. 1 13:30～15:30	南加賀保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨説明、昨年度連絡会の振り返り 講義「保育園から小学校へのつなぎの現状と課題」 講師：加賀市こども育成相談センター グループディスカッション 	管内市町母子保健担当課、児童福祉担当課、保育園、市町教育委員会、県教育事務所、管内特別支援学校、発達障害の診断や療育に携わっている管内医療機関、療育機関、発達支援センター、児童相談所、南加賀保健福祉センターの職員 32名

2 小児慢性特定疾病相談等状況

(1) 訪問・相談（表8）

小児慢性特定疾病医療費助成申請時等に、把握した相談希望者へ病気や療養生活について相談に応じた。また電話でも随時対応したが、訪問件数はなかった。

表8 相談件数 令和2年度

疾患群	実人数	延人数
悪性新生物	5	6
慢性腎疾患	1	1
慢性呼吸器疾患	2	3
慢性心疾患	11	12
内分泌疾患	4	16
膠原病	0	0
糖尿病	18	20
先天性代謝異常	0	0
血液疾患	0	0
免疫疾患	2	7
神経・筋疾患	1	1
慢性消化器疾患	4	4
染色体又は遺伝子に変化を伴う疾患群	7	29
皮膚疾患群	0	0
その他	0	0
計	55	99